

令和7年度「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」
グループワークで出た意見まとめ

◆ズれる原因（認識のズレはどこにあるのか？なぜ、ズれるのか？）

① 環境の違い

- ・病院（リハビリ室・病棟）と在宅では環境が大きく違う
病院ではできても、自宅ではできない
病院での評価が生活場面に反映されない
施設・在宅サービスでも環境が異なる
→環境が変わると、本人家族の認識が変化する

② 関係者ごとの視点の違い（ズレ）、認識のズレ

- ・医療側：急性期，回復期，同職種でも視点がちがう
- ・介護側：在宅，施設，
- ・本人：意向，認識変化
- ・家族：本人の意向の認識
→何を「できる」と捉えるかが異なる

③ 情報の表現のズレ

- ・「一部介助」の範囲の曖昧さ
- ・曖昧な表現（ほぼ/時々/できている）
- ・数字や具体的動作にしていない
→同じ言葉でも解釈が違う

④ 情報伝達不足，省略，タイミングのズレ

- ・病院での出来事が在宅サービスに正確に伝わらない
- ・回復の過程や変動が伝えられない
- ・伝達が遅い
- ・介護力（家族の実際）を十分に把握していない
→伝えるべき情報が欠けている

◆ズれる事で困る事は何か？

① 退院後の生活が安全に送れない

→再入院，転倒，誤嚥，薬の飲み忘れなど

② 家族が介護負担で困る

→介護が続かず施設入所になってしまうなど

③ サービス過不足

④ 利用者の希望と現実が一致しない

◆ズレに対する対応

① 具体的な情報共有方法

- ・数値化，具体的行動で共有

例）食事量，排泄状況，立ち上がり，歩行速度など
動画，写真で視覚化

② 双方向の確認の徹底

- ・曖昧な表現を減らす
- ・聞いたら反復して確認
- ・本人の意向を何度も確認
- ・連携とタイミングの工夫
- ・入院初期から退院後を見据えた共有

例）退院後条件は早めに提示
カンファレンスを多職種で定期的に
退院前カンファレンス
退院後，訪問者を早期に入れる

③ 評価の補完

- ・スケールだけではなく実際の動作をみる
- ・家屋調査で自宅状況をみる
- ・家族の介護力を把握，その上でサービス調整する

<まとめ>

- ・認識のずれは「環境」「視点」「表現」の違いが根本。
- ・ズレは起こるものと考え，伝え方，受け取り方を工夫する。
- ・具体的な共有と双方向の確認，多職種の連携が最も重要。